

金属板保護フィルムの城山

意匠性金属板保護フィルムの販売、加工を手掛ける城山(本社・名古屋市中東区、社長・加藤隆介氏)は、自社製品の販売を通じた地球環境保護活動に乗り出した。スキッド、木箱に使用する木材の独自商品「Sdウッド」の販売量に応じて植林や寄付を行うプロジェクトを開始し、需要家への呼び掛けを進めている。樹木によるCO<sub>2</sub>吸収促進によってカーボンニュートラル(CN)、地球温暖化緩和に貢献したい考

# 植林プロジェクト始動

## スキッド用木材の独自商品、販売量に応じ寄付



「生命の森づくり」感謝状

えだ。 どの社会的責任を果たす。 同社は2007年から、自社商品にひらインドネシアでチーもつけた企画を立ち上げ、地場の木を植える。 プロジェクト「生命の森づくり」に参画。 「Sdウッド」は、Sdウッドの年には累計本数が2千トは、Sdウッドの本を超え、アジア植林販売1立方メートルにつき1友好協会から感謝状を贈られた。 本をユーカリ種の苗木をインドネシア・バリをインドネシア・バリに植え、売上金の一部を寄付するもの。

### 植林本数記載の証明書贈呈

同樹種1本のCO<sub>2</sub>吸収・固定量は10・28キログラムとされ、成長過程でのCO<sub>2</sub>削減を目指す。 24年11月から25年4月までの総販売量を対象とし、期間中にSdウッドを購入した需要家には植林本数を記した証明書などを贈呈する。 今月には専用動画を制作、公開してキャンペーンを広く告知しながら、同社は今後も植林活動での地球環境保全へ積極的に取り組んでいく構えだ。